

【1. 日本側拠点機関名】

茨城大学地球・地域環境共創機構 (GLEC)

【2. 日本側コーディネーター氏名】

伊藤 哲司

【3. 日本側協力機関名】

国立研究開発法人 国立環境研究所

【4. 研究課題名】

東南アジアにおける気候変動適応科学のための拠点形成ネットワーク形成

【5. 研究分野】

気候変動への対策は、世界共通で取り組むべき喫緊の課題である。本事業は、なかでも気候変動への脆弱性が高い東南アジアに焦点をあて、気候変動適応の研究に取り組む研究者および所属する教育・研究機関のネットワーク化を行うものである。本事業の目標（期待される成果）は、①東南アジアの地域性を考慮した新しい適応研究アプローチの開発、②各国・地域で社会浸透させられる実践的な適応オプションの提示、③若手研究者育成と研究拠点ネットワークの構築の3点である。これらを達成するために、2回の対面での国際セミナー（ベトナム）と2回のオンライン国際セミナー（茨城大学を中心に）を開催し、書籍を発行するなど、気候変動適応に関わる研究拠点ネットワークを着実に形成した。



背景

- ・東南アジアは気候変動影響が甚大であり、その影響は各国・地域によって違いがある。
- ・現地の人々の危機感は薄く、かつ有効な対策を施すことができていない。
- ・気候変動の影響評価や予測およびそれに基づいた適応策は、それが実際に十分に活用されず人々が受け入れないという問題が生じている。
- ・ローカルな知見を相対化するために、インターローカルに発展させる必要がある。
- ・茨大GLECはベトナム、タイ、インドネシア、フィリピンで共同研究・共同教育の実績がある。
- ・2017年より日越大学「気候変動・開発」プログラムが開始。「ハノイのハブ化」が可能。

東南アジアにおける気候変動適応科学のための
研究拠点ネットワーク形成



期待される成果

- ① 東南アジアの地域性を考慮した新しい適応研究アプローチの開発
超学際的・インターローカルな気候変動影響・適応研究
- ② 各国・地域で社会浸透させられる実践的な適応オプションの提示
たとえば、当該社会のコストや文化に見合った海岸侵食対策
・災害観や自然観に基づいた防災対策
・菌類共生系を活用した泥炭地の再生、等々
- ③ 若手研究者育成と研究拠点ネットワークの構築

よりユニークな
気候変動適応の
研究拠点の構築

本事業の詳細は、以下の URL にて公開している。

<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/sarnccas/jp/>

【6. 実施期間】

平成 30 年（2018 年）4 月 1 日～令和 4 年（2022 年）3 月（4 年間）

【7. 交流相手国との中核的な国際研究交流拠点形成】

上記の図にあるとおり、茨城大学（当初は地球変動適応科学研究機関（ICAS）、2020 年 4 月からは地球・地域環境共創機構（GLEC））が主導し、ベトナムの日越大学（気候変動・開発プログラムを茨城大学が幹事校として担当）をハブとしたネットワーク化を図った。ハノイ天然資源環境大学、ベトナム経済研究所（ベトナム）、フィリピン大学ロスバニョス校およびイザバ州立大学（フィリピン）、ボゴール農科大学（インドネシア）、プークット・ラチャパット大学（タイ）、内モンゴル民族大学（中国）、国際農林水産業研究センター（日本）等が参加した。

【8. 次世代の中核を担う若手研究者の育成】

4 回行った国際セミナーにおいては、日越大学気候変動・開発プログラムで学ぶ大学院生や茨城大学生をはじめとして、若手研究者の発表の機会を十全に設けた。1 回目・2 回目のベトナムでの対面での国際セミナーの際はポスター発表の機会をつくったが、そのなかでポスター賞を設け若手研究者に授与した。また気候変動に対する脆弱性が高い地域のフィールドトリップには、そうした大学院生なども多数参加した（写真は第 2 回のベトナム北部での様子）。3 回目・4 回目のオンライン国際セミナーでは、若手が発表しやすいセッションを設けるなど工夫をし、とくに 4 回目は、茨城大学附属中学校の生徒たちや、若手を中心とした研究者による発表の機会を設け好評を博した。



【9. 研究の背景・目的等】

地球温暖化による気候変動の影響は、世界中で同じようなかたちで現れてきているわけではない。グローバルに現象を捉えていくことも大事だが、ローカルにそれを捉え、適応策を講じていく必要がある。そのローカルな適応策を、そこだけの知見に留めるのではなく、それをインターローカルにつなぐことによって、知見を学びあい、真に社会浸透ができる適応策を見出していくことが目的である。

【10. 成果・今後の抱負等】

大きな成果のひとつとして、“Interlocal Adaptations to Climate Change in East and Southeast Asia: Sharing Lessons of Agriculture, Disaster Risk Reduction, and Resource Management” を Springer からオープンアクセスの本として 2022 年 1 月に出版した（次の URL でダウンロード可能）：

<https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-030-81207-2>

2022 年 3 月にオンラインで開催された Gobeshona Global Conference 2 でも関連のセッションをもち、本ネットワークを東南アジア以外の研究者にも知らせる発表を行った。今後のこのネットワークを維持・発展させると同時に、中学生・高校生・大学生と若手研究者がインターローカルに連携するしくみづくりをしていきたいと考えている。

